

結果：術前後の側面頭部X線規格写真より，上気道の前後径変化，CBCT 画像より上気道の断面積変化をみた。断面積は全部位で拡大を認めた。前後径は咽頭上部，上咽頭下部に変化はなかったが，その他の部位は全て拡大していた。また，術後6か月のPSGでAHIが4.8まで改善し，睡眠時自覚症状も解消した。CPAP治療を終了し，顔貌変化も少なく，患者としても大変満足いく結果となった。

考察：上下顎骨に付着している軟組織が顎骨移動に伴い牽引され，上咽頭から喉頭蓋レベルの全域で咽喉腔が拡張した。そのため睡眠時に気道が確保できるようになり，PSG結果と自覚症状が改善したと考えられる。

結論：顎矯正手術がOSASの改善に有効な治療法であることが示唆された。

9. 透析患者に合併した側頭膿瘍の2例

Two cases of temporal abscess in a hemodialysis patient

○東根 まりい，川井 忠，古城 慎太郎，
山谷 元気，樋野 雅文，角田 直子，
小松 祐子，小原 瑞貴，宮本 郁也，
山田 浩之

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座
口腔外科学分野

緒言：わが国の透析患者は経年的に増加傾向にある。透析には多くの合併症があるが，骨代謝異常による骨の脆弱化，いわゆる腎性骨異栄養症（renal osteodystrophy：ROD）もその一つである。ROD患者では骨の脆弱化と細胞性免疫の低下から口腔感染をきたす場合がある。今回，透析患者に合併した骨髄炎由来の側頭膿瘍の2例を経験したので，文献的考察をふまえて報告する。

症例1：66歳，女性。糖尿病性腎症により慢性腎不全となり，透析導入されていた。2017年2月，下顎の腫脹を主訴に近在歯科を初診。下顎に残根多数あり，下顎歯計4本を抜歯。抜歯後翌日の透析終了後，右頬部の腫脹と血圧低下を認め，緊急搬送となった。右側頭部から顎下部のびまん性腫脹と抜歯窩からの排膿を認めた。炎症マーカーの著明な上昇を認め，点滴抗

生剤による消炎と局所麻酔下での切開排膿処置を行い症状は寛解した。

症例2：67歳，女性。妊娠中毒症を機に慢性腎不全となり，透析導入されていた。2019年6月，開口障害を主訴に近在歯科を受診。左顎関節症の診断で投薬処置を受けたが改善せず，7月に当科紹介となる。当科にて顎関節症を疑い投薬・開口訓練を行ったが症状改善せず，8月に左側頭部の腫脹増大と炎症マーカーの著明な上昇を認め緊急入院となった。点滴抗生剤による消炎と局所麻酔下での切開排膿処置を行い症状は寛解した。

考察：本症例では腎機能低下や低栄養等から，慢性的に免疫不全であることが炎症増悪に相加的に作用したと考えられた。パノラマやCTで歯槽硬線消失や骨梁の不明瞭化を認め，RODの所見が確認された。腎不全に伴う慢性的な骨の脆弱化から，根尖病巣の存在や抜歯を契機に顎骨に存在する慢性炎症が急性化した可能性が考えられた。

結論：今後腎不全患者の歯科受診は増える可能性がある。腎不全患者は軽度の菌性感染や粘膜損傷によりRODで脆弱化した顎骨に感染をきたしやすいため，感染リスクに配慮した口腔管理の認識が必要である。

10. 審美性歯冠修復材の牛歯エナメル質に対する摩耗例

Wear of bovine enamel against esthetic crown restoration

○齋藤 貴裕，千 和世，田中 良武，
畑中 昭彦*，菅原 志帆*，佐々木 かおり*，
齋藤 設雄*，平 雅之*，澤田 智史*，
武本 真治*

岩手医科大学歯学部3年，岩手医科大学歯学部医療工学講座*

目的：本研究では，歯冠修復物と対合歯との摩耗挙動について調べるため，CAD/CAMで製作した高強度で審美性を有する歯冠修復材と従来から用いられている審美性歯冠修復材の牛歯エナメル質に対する摩耗挙動を比較した。

方法：CAD/CAM法を応用して二ケイ酸リチ